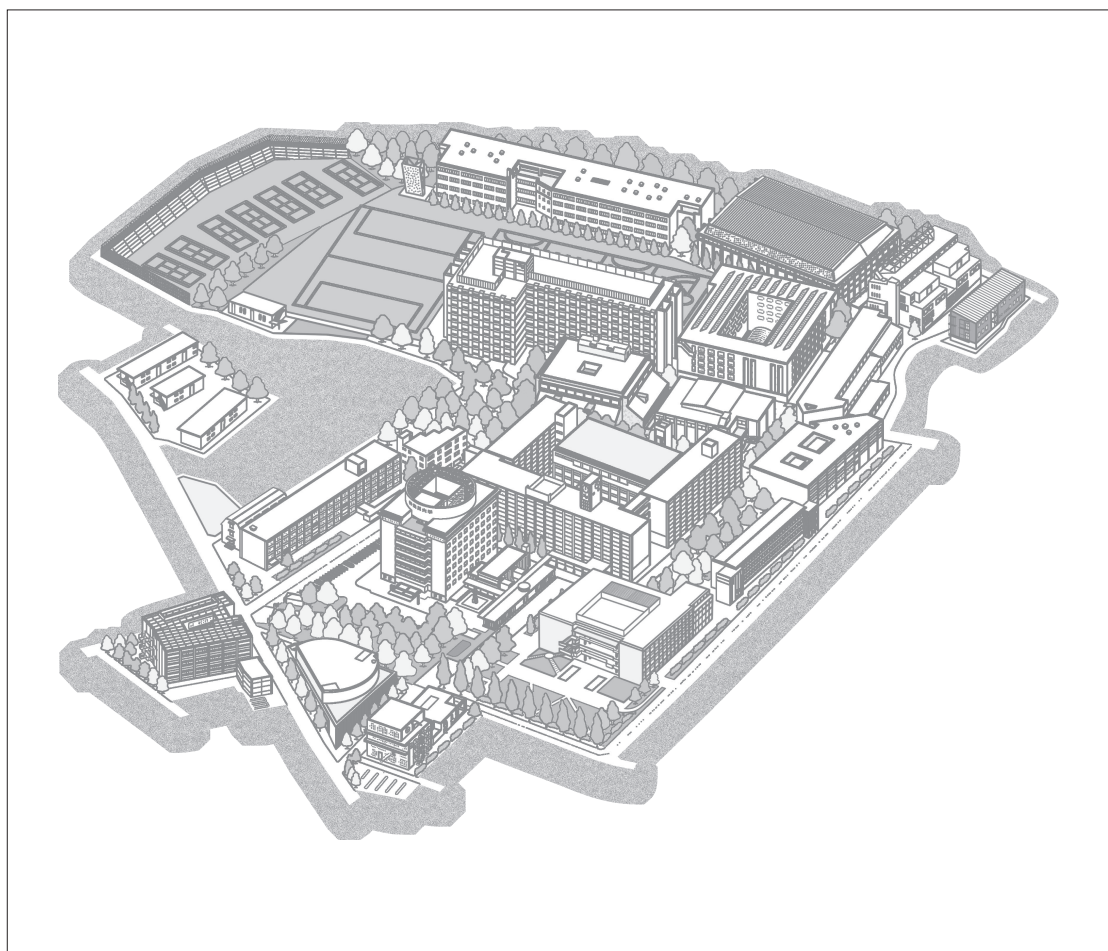


神奈川大学 人文学研究所

The Institute for Humanities Research

Kanagawa University



◆人文学研究所の事業

人文学研究所は1963年、人文学研究領域相互の活発な研究活動を支援することを目的に神奈川大学の附属研究所として設立されました。

人文学研究所の主な活動は

- ① 人文学に関する研究及び調査
- ② 研究資料の収集及び整理
- ③ シンポジウムや講演会開催
- ④ 研究及び調査成果の発表のための刊行物の発行

などを中心としています。具体的には、人文学系の各種テーマによる共同研究グループの共同研究を大きな柱に様々なシンポジウム・講演会を開催し、また、『神奈川大学人文学研究叢書』を発行するなど多彩な活動を行っています。

◆人文学研究所の研究活動

人文学研究所の活動は、共同研究グループによる調査・研究活動と、国外研究機関との学術交流やシンポジウムの開催の二つに分けることができます。本研究所設立以来、活動を展開した共同研究グループは総数30グループ以上を数えます。

【共同研究グループ一覧】

(2015.6)

No.	名 称 (人数)	研究テーマ
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題
2	色彩と文化Ⅳ	アジアの色彩・言語景観
3	言語変異研究	言語の多様性、言語と社会、文化とのかかわりを研究する。
4	ブランゲ文庫研究会	神奈川大学図書館が所蔵するブランゲ文庫資料の研究を行う。神奈川大学図書館に所蔵されている貴重文献「ブランゲ文庫」を起点にしつつ、第二次大戦終了後の東アジアにおける民族主義の歴史体験とその意味を軸とするより幅広い、深度のある研究を目指す。
5	活字文化の研究	1. 活字を通じた日本語教育と異文化理解 (国際) 2. 活字文化普及のための教育・啓発活動 (教育) 3. 活字文化普及による社会環境への影響 (社会)
6	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムについて、なかでもジェンダーという視点に注目しながら多様なテクストをもとに考察する。
7	自然観の東西比較	風土を基礎にした神と自然についての歴史的・思想史的な比較研究
8	近代都市の表象	夢と幻滅を伴いつつ近代化し、快適さとともにさまざまな問題を生み出してきた欧米・東アジアの都市について、どのような表象が、どのような諸力と関連しながら提示されてきたかを検証する。
9	越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う。
10	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。
11	帝国とナショナリズムの言説空間	東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、アフリカにおける帝国支配とナショナリズムの交錯の様相を把握する。
12	NCH 新聞研究会	神奈川大学が所蔵するNCH (North China Herald) の新聞 (ONLINE版) の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究。

◆人文学研究所 2015 年度講演会（前期）

人文学研究所

No.	日時	講演者	テーマ	所属	場所
1	5月22日（金）	瀧山 健	運動学習の統一理論モデル ——運動学習における“誤差の予測”の重要性——	玉川大学脳科学研究所	13-B135
2	6月11日（木）	根本潤子	世界遺産の光と影	東京観光専門学校, NPO 法人 世界遺産アカデミー認定講師	20-310
3	6月16日（火）	杉崎雅子	学校教育相談の実際——教師が知っておくべきこと——	東海大学課程資格教育センター・ 神奈川県スクールカウンセラー	20-113
4	6月23日（火）	石川真知子	死を賭して「男」に变身する妹——家族規範を攪乱する女性の物語として再解釈する『兄弟心中』音頭——	タスマニア大学人文学部アイジ研究学科博士課程	17-216
5	6月26日（金）	篠山淳子	発達障がいのみで幸せに生きる	NPO 法人あではで神奈川	20-213
6	6月26日（金）	星野悦子	音楽心理学事始め	上野学園大学音楽学部教授	8-33
7	7月 8日（水）	中村達雄	中国対日プロパガンダ・ラジオの変遷	明治大学非常勤講師, フリーライター	20-417A
8	7月13日（月）	稲田清貴	我が国のトップアスリートに対するスポーツ医科学研究及び支援の取り組み	独立行政法人日本スポーツ振興会センター	3-205
9	7月20日（月）	服部浩幸	The global situation of out-of-school children: What the date (visually) show	UNICEF（国連児童基金）	3-206

◆学術交流とシンポジウムの開催（2005 年～2015 年）

- ◇国際シンポジウム「ヴィジュアルとグラフィックの語り」2010 年
- ◇国際シンポジウム「越境する比較文化」2011 年
- ◇国際シンポジウム「スタニスワフ・レムについて」2011 年
- ◇国際シンポジウム「Reform, Reuse and Recycle: Comparative Literature Perspectives on Adaptation」
（リフォーム, リユース, リサイクル: 比較文学文の視点からみる改作）2012 年
- ◇国際シンポジウム「東アジアの日本研究の現状と未来」2012 年
- ◇国際シンポジウム「Transform, Transfigure, Transcend: Translation in Cultural Studies」(変形, 変容, 超越——カルチュラル・スタディーズと翻訳) 2013 年
- ◇人文学研究所 50 周年記念 夏期学術講演会「人と人との結びつきのあり方——世間と社会の歴史的考察」「東洋史研究といまの日中関係で感じたこと」2013 年
- ◇人文学研究所 50 周年記念 冬期学術講演会「うそと皮肉はどう違うか——ことばの使用から心を見る」「イギリスルネサンスの人文主義と女子教育」2013 年
- ◇国際シンポジウム「Representations of Death across Cultures」(異文化における死の表象) 2014 年
- ◇国際シンポジウム「Know Thine Enemy. Cultural Perspectives on Antagonistic Dynamics」
（汝の敵を知れ—文化研究の観点から見る敵対意識の力学）2015 年

◆人文学研究所の出版物

人文学研究所は研究所の諸活動によって得られた成果を社会に還元するために『人文学研究所報』を年に2回発行しています（2015年度 第53号）。国外研究機関との学術交流の成果としては、浙江大学日本文化研究所との共編で『中日文化論集』（1991～1999, 中国語）を発行してきました。さらに、共同研究グループの研究成果をまとめた学術書シリーズ『神奈川大学人文学研究叢書』を発行しています。

人文学研究所共同研究グループ一覧

2015 年度

No	名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	メンバー	人数	叢書
1	日中国関係史	近代以降現在までの日中国関係の問題	1. メンバー各自の関心に基づく研究会の開催 2. 学外研究者の講演、研究交流 3. 日中相互の留学生に関する調査研究 4. 在日華僑に関する調査研究 5. 中国朝鮮における旧日本租界に関する調査研究	山口 (建)	山口 (建)・松本・日高・鈴木 (陽)・彭・中村・村井 (寛)・孫・中林 〔非〕大里・中島・吉川・楊・呉 〔学外〕朱・王・周・見城・劉	19	2017 年 検討中
2	色彩と文化 IV	アジアの色彩・言語景観	1. 研究会を開く (随時) 2. 外部関係者による講演会を開催する (随時) 3. 国内・外における調査研究を行う	三星	三星・尹・晁・彭 (経) 田島・山口 〔非〕小林 〔学外〕畑田・白・林	10	2016 年 検討中
3	言語変異研究	言語の多様性、言語と社会、文化とのかかわりを研究する。	1. 言語景観と言語変異 2. 言語政策と言語変異 3. 言語教育と言語変異 4. 地域文化と言語変異	彭	彭・松村・加藤・劉 〔非〕岡・鈴木 (進)	6	無
4	プラング文庫研究会	神奈川県図書館が所蔵するプラング文庫資料の研究を行う。 神奈川県立図書館に所蔵されている貴重文献「プラング文庫」を起点にしつつ、第二次大戦終了後の東アジアにおける民族主義の歴史体験とその意味を軸とするより幅広い、深遠のある研究を目指す。	2015 年 4 月 17 日 例会を実施 2015 年 5 月 8 日 例会を実施 2015 年 10 月 25 日～27 日 上海会議を予定 2016 年 2 月 17 日 例会を予定	孫	孫・村井 (寛) 〔営〕泉水 〔法〕阿部 〔非〕大里 〔名〕尹 (健) 〔学外〕小林	7	2016 年 検討中
5	活字文化の研究	1. 活字を通じた日本語教育と異文化理解 (国際) 2. 活字文化普及のための教育・啓発活動 (教育) 3. 活字文化普及による社会環境への影響 (社会)	1. 研究テーマに即した調査・研究の実施 2. 研究会の開催	松本	松本・新木・駒走・小松原・坪井・間山・尹・高木 〔非〕和美	9	無
6	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムについて、なかでもジェンダーという視点に注目しながら多様なテクニストをもとに考察する。	1. 今年度 (2015 年度) 叢書刊行に向けて、これまでの研究成果を個々の論考に反映させる。叢書タイトルは「(68 年) の身体——変容する社会・性・ジェンダー」を予定しており、各章の担当は以下の通り。なお、出版社とは交渉済みである。 2. 研究会を開催し、(前期)、各章執筆の進捗報告を行いながら、叢書にさらなる統一性を出すことを目指す。	小松原	小松原・山口 (ヨ)・村井 (ま)・ラットクリフ・熊谷・土屋・空閑・ウェルカー	8	2015 年
7	自然観の東西比較	風土を基礎にした神と自然についての歴史的、思想的な比較研究。	1. 研究会の開催 (前期 3 回、後期 3 回)	伊坂	伊坂・上原・小熊・坪井・鳥越・前田・村井 (ま)・山本	8	2018 年
8	近代都市の表象	夢と幻滅とを伴いつつ近代化し、快適さとともにさまざまな問題を生み出してきた欧米・東アジアの都市について、どのような表象が、どのような諸力と関連しながら提示されてきたかを検証する。	研究会などにより認識を深め、近い将来に叢書出版することを目指す。	鳥越	鳥越・熊谷・小松原・鈴木 (陽)・土屋・日高・坪井・村井 (寛)・山口 (ヨ)・深澤	10	2016 年
9	越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う。	毎年 6 月に国際シンポジウムを開催し、ワークショップの活動の中で研究論文集の計画を練る。	ラットクリフ	ラットクリフ・村井 (ま)・ブッヘンベルグ・〔非〕前島	4	検討中

10	ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に廻り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。	1. 研究テーマに関連した講演会を年4回程度実施する。 2. 研究テーマに関連した調査を行う。 3. 研究テーマに関連した勉強会を定期的に実施する。	衣笠	衣笠・太田・宮崎・笹川 〔非〕鈴木・塩田・大金	7	無
11	帝国とナショナルリズムの 言説空間	東アジア、東南アジア、ラテンアメリカ、アフリカにおける帝国支配とナショナルリズムの交錯の様相を把握する。	2014～16年度神奈川大学共同奨励研究助成を受けている。年2回の定例研究会を開催するほか、適宜外部講師を招へいして研究会を開催する。	永野	永野・村井（寛）・土屋・久田・小馬・梅崎 〔営〕泉水・高城 〔経〕山本 〔名〕後藤	10	2017年
12	NCH 新聞研究会	神奈川大学が所蔵するNCH (North China Herald) の新聞 (ONLINE版) の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究。	NCH 関連の研究会、資料調査、輪読会を開催する。 2015年5月17日 例会を実施 2015年6月8日 例会を実施 2015年10月25日 会議を予定 2016年2月17日 例会を予定	岩本	岩本・村井（寛）・孫・菊池・山本・土屋 〔営〕泉水 〔学外〕渡辺	8	無

〔名〕名誉教授 〔非〕非常勤講師 〔学外〕学外研究者

神奈川大学人文学研究所叢書一覧

人文学研究所

No.	年度	タ イ ト ル	出 版 社
1	1983	悲劇——その諸相と人間観——	神奈川新聞社
2	1984	日本文化——その自覚のための試論——	神奈川新聞社
3	1985	続 日本文化——伝統と近代化の再検討——	神奈川新聞社
4	1986	民族と国家——国際関係の視点から——	神奈川新聞社
5	1987	「近代」の再検討——ポスト・モダンの視点から——	神奈川新聞社
6	1988	いま、日本と中国を考える——日中比較文化論——	神奈川新聞社
7	1990	「民族と国家」の諸問題	神奈川新聞社
8	1991	ロマン主義の諸相	神奈川新聞社
9	1991	インディアスの迷宮	勁 草 書 房
10	1992	聖と俗のドラマ	勁 草 書 房
11	1994	秘密社会と国家	勁 草 書 房
12	1995	ヨーロッパの都市と思想	勁 草 書 房
13	1996	国家とエスニシティ——西欧世界から非西欧世界へ——	勁 草 書 房
14	1997	芸能と祭祀	勁 草 書 房
15	1998	笑いのコスモロジー	勁 草 書 房
16	1999	ロマン主義のヨーロッパ	勁 草 書 房
17	2000	ジェンダー・ポリティクスのゆくえ	勁 草 書 房
18	2001	日中文化論集	勁 草 書 房
19	2002	歴史と文化の境界	勁 草 書 房
20	2003	「明六雑誌」とその周辺——西洋文化の受容・思想と言語——	御茶の水書房
21	2004	新しい文化のかたち——言語・思想・くらし——	御茶の水書房
22	2005	中国における日本租界——重慶・漢口・杭州・上海——	御茶の水書房
23	2006	世界から見た日本文化——多文化共生社会の構築のために——	御茶の水書房
24	2007	在日外国人と日本社会のグローバル化——神奈川県横浜市を中心に	御茶の水書房
25	2008	表象としての日本——移動と越境の文化学——	御茶の水書房
26	2009	ジェンダー・ポリティクスを読む——表象と実践のあいだ——	御茶の水書房
27	2009	中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産	御茶の水書房
28	2010	世界の色の記号——自然・言語・文化の諸相——	御茶の水書房
29	2011	〈悪女〉と〈良女〉の身体表象	青 弓 社
30	2011	グローバル化の中の日本文化	御茶の水書房
31	2012	植民地近代性の国際比較 ——アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験——	御茶の水書房
32	2012	戦後日本と中国・朝鮮——ブランゲ文庫を一つの手がかりとして——	研 文 出 版
33	2013	色彩の快：その心理と倫理	御茶の水書房
34	2013	先住民運動と多民族国家——エクアドルの事例を中心に——	御茶の水書房
35	2014	近現代中国人日本留学生の諸相——「管理」と「交流」を中心に——	御茶の水書房
36	2014	近代日本の宗教論と国家——宗教学の思想と国民教育の交錯——	東京大学出版会